

川越基督教会50年史(?) があった

…歴史資料のデジタル化によって…

パウロ 山本 元

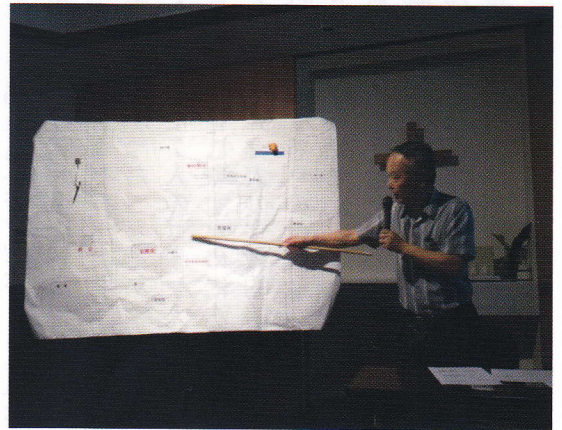
「主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書きがしるされた。」

マラキ書3章16節

来年、宣教開始140年を迎える我が教会には、その永き年月に応じ多くの歴史的資料が保存されている。その草創期から始まり、諸先輩たちの教会生活におけるご苦労を読み取れるものが数多くある。

資料保管委員会は一昨年の夏よりこの資料群の整理作業に入った。かつて当教会を司牧された福島忠男司祭様が一部資料を分類されたものからこの作業に入った。約1400部に及ぶ資料の、資料目録の作成とスキャン画像としてコンピューターへの取り込みである。明治期の資料の中には筆文字が多く判読には苦慮し、発行年月日、場所の不明も多くあった。作業が進んだ時に整理方法に誤りがあり、最初からやり直し。素人作業員の奉仕のため2年の歳月を注ぎ込んだの事業であった。

この度この作業の完成をもって、教会員の皆さんにそのお披露目と説

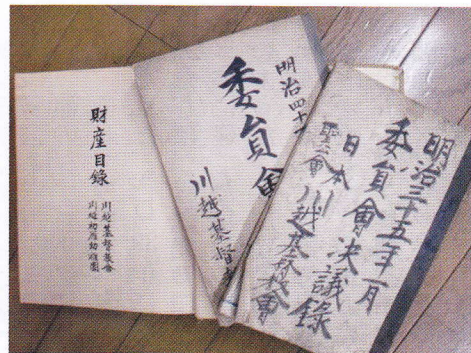


明の時を持たせていただいた。9月24日に開催した「教会歴史資料 デジタル化の説明会」である。全23の箱に種類ごとに分類された各資料にID番号が付与され、読みたい資料はその項目で検索が出来、原資料に触れる事なく、コンピューターの画面で読み取りが出来る事などの説明をし、質問、意見交換のひと時を持った。

保管全資料の約半数の整理を終え、残る資料の整理に入った昨今である。毎水曜日6〜7名の委員でその地道な作業は進めていかれる。この整理、完成されたデジタル資料はパソコン画面で自由に読むことが出来る。この多くの資料に目を通してみて、改めてこの教会の永い歴史のひとこま、

ひとこまを知り、この教会の大きさ、広さを感じ取ることが出来る。

ここに二つの資料を紹介したい。



冒頭に紹介した聖句は「川越基督教会・初雁幼稚園財産目録」(ID 15-1)の2ページめに記されている

ものである。30数ページにおよぶこの書物は、教会と幼稚園の保有全財産の購入経緯、内容を細かく記載したもので、その後半にはそれぞれの創立発展期の経緯、沿革が詳しく書かれている。この書物が出来たのが1928年(昭和3年)、ちょうど宣教開始50年目にあたり、まさに「川越教会50年史」といえるもの。この教会にはすでに「蕨の教会・川越基督教会百年史」、「川越キリスト教会130年史」が上梓されており、この書はその先駆けともいえる。その以降十数年にわたり判明事項の書き込みがなされている。この書の制作者は、当時の司牧者奥村亮司祭と山本藤輔氏(山本喜一兄、若宮

光子姉の尊父)との証言を耳にしたことがある。

次に、明治末期に表せられた「委員会決議録」(ID 19-1)。田井司祭が川越に居を構えた翌年の明治35年からの教会委員会記録である。5〜6名の委員さんが熱心に討議された様子が克明に記されている。牧師俸給の件、教会井戸修理の件、大斎節につ



いて等々。そして度々議されているのが教会墓地購入の件である。その様子から念願事項の重要課題であったことがうかがえる。この案件もそれから60年後の1960年に見事「川越キリスト教会霊園」として私たちに与えられた。

こうして資料を見ていくと、往時の先輩の皆さん方の悩み、喜びがそのまま今の私たちの教会活動に繋がっていることが分かる。感謝して資料を読み続けたい。

資料の閲覧はいつでも出来ます。資料委員にお申付けください。

(資料保管委員長)